

## カエルの上陸① あまりに小さすぎる！ ヒキガエルの陸上進出

カエル班のタクムたちが**ヒキガエルの幼体**の調査をしていたので、最近ではカエルの幼体（つまり、“若者”）に注目している。そういえば、これまであまり幼体については注目していなかった。以前、オタマジャクシがちょうど池から上陸するタイミング、つまり**幼生**（オタマジャクシ）から**幼体**へ変態するタイミング、にたまたま出くわしたことがあるが、久しぶりにその様子を見てみたくなった。

鳥班のミフミが、猿江のオタマジャクシが上陸しているのを見たというので、その翌日の4月28日、ちょうど雨が降ったためタクムたちと池に行ってみることにした。なお、タクムたちは研究のために池に通いきちんと調査しているが、ぼくはただ写真を撮りに行っているだけの野次馬だ。

先に着いていたタクムたちが結構な大雨の中、懐中電灯を照らしながら地面を凝視してじっとしている。「おーい、上陸の様子見れたかーい？」と声をかけると、「たくさんいるけど、**動く**と**踏みつぶ**しそうです！」と返ってくる。なるほど、だからみんな動かず観察しているのか。どれどれと見てみるが、ぱっと見では見つけられない。指を差されて初めて存在に気づいた。**あれ？！上陸したってこんなに小さいんだっけ？！**オタマジャクシを飼ったこともあるし、上陸したての幼体を見たことがないわけではないけど、野生で見るとあまりにも小さくて改めて驚く。カエルは上陸するときに尾がなくなるので、オタマジャクシよりも上陸時の子ガエルの方がむしろ小さくなる。ヒキガエルはとくに小さく、**1cmほどしかない**。水たまりなどの短期的な水場でも繁殖できるよう、オタマジャクシ期間をなるべく短くして、小さいまま陸に上がる戦略なのだろうか。その分、上陸したては非常に弱々しく、下手したらアリの襲われたりもするんじゃないかと心配になる。上陸後すぐに湿度のある茂みなどにたどり着けなければ、乾燥してすぐしんでしまうだろう。タクムいわく、「**上陸後に9割が死ぬ**」と書いてある文献もあるそうだ。

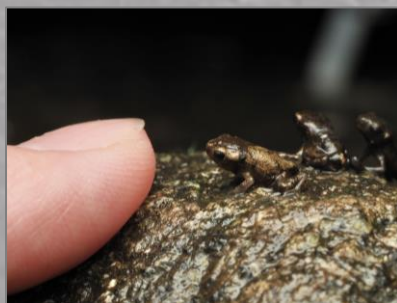
この日上陸したこの子ガエルたちのうち、いったいどのくらいの数が生き残れるのだろう。都市公園だと人間にもたくさん踏みつぶされてしまいそうだ。どうか、たくましく生き延びてほしいものだ。



**動かずに観察するカエル班の面々**  
一歩踏み出すと幼体を潰しそうだ。



**岩の上に集まっていた**  
この後、公園のあちこちに分散して行く。



**指との比較** これが数年後に15cmぐらいまで成長すると思うと、驚きだ。



**まだ尾が残る個体** 頭だけ水面に出ていて、今にも陸に上がりそうだ。



**上陸したばかりのヒキガエルの幼体** 4/28 猿江恩賜公園  
まだ池から10cmほどしか離れていない。上陸したての個体。体長1cmほど。オタマジャクシが変態してしっぽを失い、陸に上がる。しっぽがあった部分が黒くなっている。